



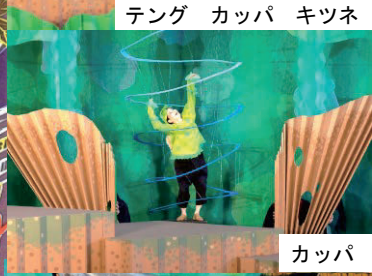
カラス一座



テング カッパ キツネ



千代ばあちゃん



カッパ



鯨 髭太郎



妖怪大ナマズ

作・脚本/金田拓・堀切リエ 演出/中島研
 音楽・効果/曲尾友克 振付/桐山良子
 美術/浅野井優子・中島研・風の子美術部
 衣裳/小峯三奈
 制作/浅野井優子・田中美和・吉野由起

ときは現代、ところは天神沼。子どものカッパとテングとキツネが住んでいる。ここのところ雨が降らず沼の水は枯れかけていて、カッパは息も絶え絶え。そこへ怪しげな社長、鯨髭太郎が沼を埋め立て、テーマパークをつくらうとやってきた。三匹は、ここを守り、沼をよみがえらせるために勇気をふりしぼって立ち上がった。

「花を咲かせよう」 ◎作・脚本 金田拓・堀切リエ

「枯れ木に花が咲くことより、生きた木に花が咲くことにおどろきなさい」と言った江戸時代の哲学者がいます。花が咲くには、大気、雨、土、微生物など生きものの多様なつながりが必要で、それらは一度とぎれると蘇らせるのは大変な、実に尊いものです。私たちは、カッパ、テング、キツネたちの力を借りて、天神沼に再び花を咲かせる物語を書くことにしました。

今、子どもたちの未来に大きくのしかかっているのは、私たち人間が引き起こした地球の環境問題です。カラス一座のカラスたちは、人間の目には見えずに生きてきたものたちの話をおもしろい芝居に仕立てたそうです。さて、何が見えてくるでしょうか。

